

利根川沿川地域における洪水遡上対策の証 反町閘門、川口川閘門

公益社団法人土木学会関東支部
茨城会理事兼調査研究部会長
澤島 守夫

■利根川沿川地域における洪水遡上対策

利根川などの大きな河川の沿川や霞ヶ浦の沿岸の地域では、大雨時に河川本川や湖沼の水位が上昇すると、本川や湖沼に流入している支川を通じ本川等の洪水が遡上し、度々、大きな浸水被害が発生していた。

これらの地域では、洪水の遡上をくい止め、安定した耕作や安全・安心なまちを築くことが長年の悲願であった。このため、明治三十年代に至り欧米から導入された近代土木技術が普及してくると待望のレンガ造りの閘門の建設が進められた。

しかし、これらの施設は、近年の新たな治水対策の進展や市街地の整備により機能を廃止し、現地から撤去されていった。

この様な中で、坂東市・常総市や土浦市においては、撤去された部材の一部を使い、在りし日の面影を残す取り組みが行われている。

■反町閘門

利根川からの洪水遡上をくい止め、飯沼新田地域の洪水を防止するレンガ造りの閘門―

反町閘門（写真1）は、利根川の増水時に、飯沼川を遡上する洪水による飯沼新田地域の湛水被害を防止するため、一九〇〇（明治三十三年）年に川を横断するように建設された全長約二二メートル、幅約六・三五メートルのレンガ造り三連アーチの閘門

である。飯沼新田地

域は、約三千ヘクタールにおよぶ江戸時代の干拓地である。閘門の躯体に取り付けられた扉は、通常時は開けて、河川の流水や船を通過させ、洪水時には閉めて、洪水の遡上をくい止めるものである。

しかし、昭和十年の大洪水時には遡上する洪水が閘門の天端を越水する事態が発生したため、翌年に閘門の上部に高さ一六〇メートルの防水壁の増設を行っている。その後も、越水が続き、昭和三十一年に至り、本閘門の下流側に新たに法師戸水門が建設され、逆流防止機能を新水門に譲ることとなった。

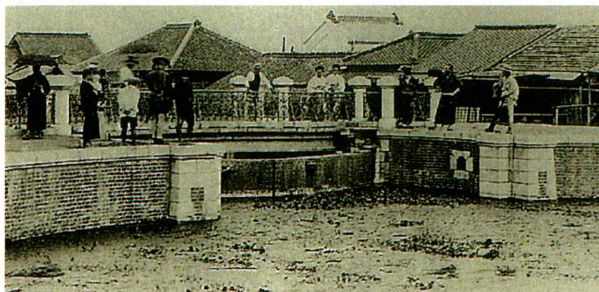


（写真2）部材の一部を使い復元された反町閘門
（茨城県自然博物館園庭）

茨城県では、本閘門が明治三十年代のレンガ造りの美しい三連アーチの大型閘門として長く親しま



（写真1）在りし日の反町閘門（茨城南総土地改良区所蔵）（茨城南総土地改良区：「茨城南総のあゆみ」P71）



(写真3) 在りし日の川口川閘門 (土浦市立博物館所蔵)
(土浦市:「図説 土浦の歴史」P110)

そのため、一八九五(明治二十八)年、常磐線を霞ヶ浦湖畔とまちとの間に盛土で敷設し堤防の役割を持たせ、一九〇六(明治三十九)年に川口川の河口部に常磐線の盛土に接続して機械閉開式の川口川閘門(写真3)を建設した。この閘門は幅約八メートル、高さ約二メートルのレンガ造りの閘門で、両側から機械的に開閉が出来る二枚の鉄製の門扉を備え、霞ヶ浦の

水位が上昇した時に門扉を閉めて洪水遡上をくい止めた。その後、昭和十六年の大水害では市街地に氾濫した水が抜けず二週間も浸水が続いたため、本閘門の脇に排水ポンプを設置した。

近年、土浦市では市街地の整備が進み、濠や水路は順次埋め立てられた。川口川も昭和五十年代に暗渠化され、本閘門の使命は終え、閘門の区間は常磐線をくぐる地下道となった。

一九八六(昭和六十一年)年に至り、土浦市は市民からの要望を受け、土浦の洪水史上、先人の汗と涙の結晶である閘門を後世に伝えるため、地下道に隣接した公園に、当時の鉄の門扉と排水ポンプを展示施設(写真4)として設置している。

■川口川閘門
—霞ヶ浦の増水から土浦市街地を守るレンガ造りの閘門—
土浦は江戸時代に霞ヶ浦湖畔に造られた城下町で水運により繁栄してきた。まちの中には中小の河川、水路や濠が多くあり、川口川は土浦城や水戸街道沿道の商家と霞ヶ浦を結ぶ運河の役割も果たしていた。しかし、大雨時に霞ヶ浦の水位が上昇すると、川口川を洪水が遡上し、まちは大きな水害に悩まされてきた。

れ、利根川沿川地域における洪水遡上対策のシンボリック施設として歴史的にも貴重なものであることから、一九九四(平成六)年、近隣の茨城県自然博物館の開設に合わせ、博物館園庭に部材の一部を使用して復元し、屋外展示施設(写真2)として活用している。

一九八六(昭和六十一年)年に至り、土浦市は市民からの要望を受け、土浦の洪水史上、先人の汗と涙の結晶である閘門を後世に伝えるため、地下道に隣接した公園に、当時の鉄の門扉と排水ポンプを展示施設(写真4)として設置している。

一九八六(昭和六十一年)年に至り、土浦市は市民からの要望を受け、土浦の洪水史上、先人の汗と涙の結晶である閘門を後世に伝えるため、地下道に隣接した公園に、当時の鉄の門扉と排水ポンプを展示施設(写真4)として設置している。



(写真4) 公園展示施設となった川口川閘門の門扉

■ 反町閘門 諸元

- ・所在地 坂東市神田山、
(坂東市大崎 茨城県自然博物館園庭)
- ・構造等 レンガ造り3連アーチ閘門
- ・竣工年 1990(明治33)年、(1994(平成7)年)
- ・管理者 (茨城県)
- ・備考 ():復元された反町閘門

■ 川口川閘門 諸元

- ・所在地 土浦市川口
- ・構造等 レンガ造り機械式閘門
- ・竣工年 1906(明治39)年、(1986(昭和61)年)
- ・管理者 (土浦市)
- ・備考 土浦市指定文化財歴史資料
():公園展示施設となった川口川閘門の部材

(参考文献)

是永定美:土木史研究第18号「関東地方のレンガ造水門建設史」1998(平成10)年/茨城県教育委員会:「茨城県の近代化遺産」2007(平成19)年
茨城南総土地改良区:「南総のあゆみ」2000(平成12)年/土浦市:「土浦市史」1975(昭和50)年、「図説 土浦の歴史」1991(平成3)年